

# 21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

発行者：亀田 泰武

編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当

〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1

URL <http://www.21water.jp/>

E-mail [info1@21water.jp](mailto:info1@21water.jp)

第31号 2014年3月25日号

## 久しぶりの雨水吐とマンホール

理事 山下 博

38年間の横浜市役所勤務を終り、首都圏から出る大量の建設発生土のリサイクルを進めている(株)建設資源広域利用センターに2年間世話になり、その後、平成24年7月から日本工営(株)にお世話になっています。東京支店の技術顧問ということですが、主に神奈川県下の横浜、川崎、相模原の3市の都市計画、道路、河川、下水道等の公共事業全般の設計、監理委託事務を行うとともに、本社で上下水道部のメンバーとして勤務しています。



日本工営が共有している特許の一つに、雨水吐における夾雑物の除去率を高めるための「水面制御装置」があります。国内での設置は1500か所を超えるところまで行き、全国にかなり広がっていますが、横浜市は未設置でした。そこで、新規に設置するために参考となるようにいくつかの雨水吐を見ることとなり、私も20年近くは入っていなかったマンホールから、雨水吐室に入りました。最初に入ったのが横浜市の中部水再生センターに入る直近の合流幹線にある構造物であり、縦横で500㎡あるようなごついものです。役所の方々と清掃の委託を受けている業者そして我々の社員合計10人が中に入りました。前もってジェット洗浄もすんでおり、既設の横浜市型のスクリーンには夾雑物はかなりありましたが、匂いはあまりひどくはありませんでした。そんな中で約一時間程度関係者が調査を行いながら、意見交換をしました。

現場を見ながら、40年前に下水道局に入りたてであった頃を思い出しました。当時、臨海部工業地帯での既設管調査でのマンホールは踊り場も少なく、足掛金物が腐食して細くなっていたり、

匂いはひどく、ネズミも相当にいました。また、推進工法の初期は内径600mmまで、ヘルメットを推進管にぶつけながら次のマンホールに這ってたどりつくものでした。そんな時代から、今日の下水道を見てみると、施工管理基準も厳しくなり、安全管理が徹底されていますので、いろんな面でほっとできます。また、3月8日に行われたGKPの「マンホールサミット2014」はマンホール蓋の歴史、技術の進歩、芸術性について語られていましたが、今回はマンホールの構造にも入るとのことで、楽しみが増します。

最後になりますが「21世紀水倶楽部」に入会し、広く深くそして楽しく下水道を語る仲間と知り合いになり、幸せな日々を送っています。